

学校名 <h2 style="text-align: center;">玉城こども園</h2>	連絡先 TEL: <b>098-948-7511</b> Eメール: tamagusuku-cc@iwakikai.net
--	--

### 1 実践事項

研究主題 「遊びこむ幼児を育む」  
 ～地域文化と触れ合うことを通して～

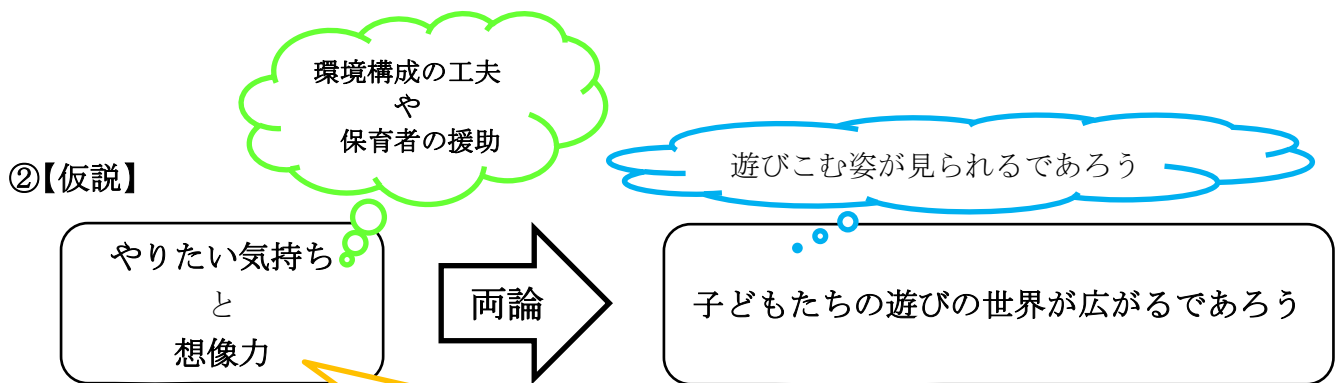
タイトル: 「 \_\_\_\_\_ 木の枝で筆ができた! \_\_\_\_\_ 」

### 2 実践内容

- ・ アダンの木の枝で木の筆を作ろう。

### 3 説明資料

①【視点】 \_\_\_\_\_  
 園児が「もっとやりたい、またやりたい」と思えるための保育者の援助のあり方



想像力（イマジネーション）とは目には見えないものを思い浮かべる能力のことである。人は目で見、耳で聞き、手で触れる現実のほかに、想像力で作り出した世界を自分の現実にすることができる。

### ③【目指す姿】

好きな遊びに「こうしたい」という思いをもって関わり、面白さを感じながら夢中になって遊ぶ姿

繰り返し遊ぶ中で自分なりの目的に向かって考えた、工夫したりして探求していく姿

遊びのなかで感じたこと、考えたこと、発見したことなどを周りに伝え楽しさを共有しながら自分たちで進めようとする姿

【やりたい気持ち】

【想像力】

【やりたい気持ち】【想像力】

## ④遊びこむ姿と環境構成・保育者の援助

### 【3・4歳児の遊びこむ姿】

#### ① 興味・好奇心

- ・いろいろなことに興味をもっている姿
- ・傍観しながら遊びに参加する姿
- ・なぜ？何？と疑問をもつ姿

#### ① してみようとする

- ・自分なりに遊んでみる姿
- ・自分がしたいことを選んでする姿
- ・いろいろなことをしてみようとする姿

#### ② 繰り返し遊ぶ

- ・試したり工夫したりして遊びを展開していく姿
- ・繰り返し遊ぶなかでいろいろなことに気づく姿

#### ④ 主体的

- ・自分から進んで遊びに取り組む姿

### 【環境構成】

- 園児が興味を持っていることを取り入れた環境
- ・遊ぶ用具の準備（シャベル、スコップなど）
- ・桶に水を入れて準備する
- ・ままごとと用具を準備する

- 自由に遊びを楽しむことができる環境
- ・ままごと（カップ、葉っぱ等を準備する
- ・虫かご、図鑑、虫取り網を取りやすい場所に置く

- 遊びを引き続き楽しめる環境
- 試したり工夫したりできる用具や材料の準備をする
- ・展示する場所を決めて明日の遊びがつながるようにする
- ・室内、室外の観察できる場所を決めておく

- 興味をより深められる環境（絵本や図鑑）
- ・園児が主体的に遊べるように用具の置き場所を固定し遊びやすい環境をつくる
- ・図鑑をコピーして掲示したり、虫眼鏡を準備しておく
- ・コーナーをつくり興味ある虫を掲示する

### 【保育者の援助】

- 幼児の思いを受け止め見守る
- 遊びの振り返りをする時間をもつ
- ・朝の会で今日の遊びの導入をする
- ・帰りの会で今日の楽しかったこと、遊びで工夫したこと、お友達と力を合わせたこと等を発表する機会を設ける

- 教師も一緒に遊びを楽しむ
- 幼児の思いに寄り添い、共感したり、提案したりする
- ・教師も一緒に遊び、面白さが存分に感じられるようにする
- ・保育者も一緒に虫の名前を調べたり一緒に観察したりして子どもに共感する
- ・虫好きな子をリーダーとして、友だちとイメージを共有できるように声かけをする
- 繰り返しあそぶことができる時間や場の確保

- 園児の思いに共感する
- ・帰りの会で発表の場を設ける

## 【5歳児の遊びこむ姿】

### ① 興味・好奇心

- ・なぜ？何？と興味や関心をもつ姿
- ・好奇心をもって自分から関わる姿

### ② 目的をもつ

- ・自分なりに目的をもって遊ぶ姿
- ・友だちと同じ目的をもって遊ぶ姿

### ③ 試行錯誤

- ・いろいろな方法で、試したり工夫しながら遊ぶ姿
- ・いろいろな素材を使って、組み立てたり、挑戦してみようとする姿

### ④ 持続

- ・夢中になって遊ぶ姿
- ・一つの遊びが継続する姿

### ⑤ 人との関わり

- ・友だちと思いを伝え合う姿
- ・友だちと協力する姿

### ⑥ 主体的

- ・自分のしたいことに自信をもって取り組む姿
- ・自分の思いを伸び伸びと表現する姿

## 【環境構成】

○視覚的な刺激となる環境（絵本や写真など）

- ・絵本や図鑑ですぐに調べることができるように置き場所や掲示の仕方を工夫する

○目的を持てるような環境づくり

- ・行事に向けて目標達成ができるような掲示物の作成。例えば、縄跳びや竹馬等のチャレンジカードを用意する

○選択できる用具、材料の用意

- ・様々な素材の用意。コーナーや配置場所の工夫

○遊びが継続できるような環境の設置

- ・制作した物を壊さず、次の遊びにつながるように保管場所の確保

○友だちと協力しあえる材料の大きさや数の準備

- ・十分に遊べるように時間を確保する

○したいことが自由にできる環境

○興味を深められる環境（絵本・図鑑）

- ・園児が主体的に遊べるように用具の置き場所を固定し遊びやすい環境をつくる

## 【保育者の援助】

- ・保育者も一緒に調べたり、調べたことを掲示する

○クラスで遊びの話題の共有、話し合いをする

- ・できた時には、褒めてあげ保育者も一緒に喜んだり、友だちの前で披露する場をもつ

- ・色々と試したり、工夫している姿を認めつつ、困った時には一緒に考える

○一緒に考えたり、考えるためのヒントをタイミングよく出したりする

- ・発表の場を設け他の園児にも興味・関心を持たせるように声かけをする

○保育者も友だちの一員となって一緒に遊ぶ

- ・友だちと思いを伝えることができる場を多くもつようにする

○自由に思いや自分の考え・意見を出したり、表現したりできる空間、雰囲気をつくる

## 実践事例 ( 地域文化との触れ合いを通して : 5歳児 )

<幼児の実態>

- ・廃材遊びや、物作りが得意な子ども達が多く、虫の家や、虫の公園、船、ゴミ箱、迷路等々、友達とアイデアを出し合い協力して作ることを楽しんでいる。木の枝を見つけ「遊んでいい?」と手にとり感触を味わっている

### 【1日目】 「すごい!先生これ何の木?使っていい?」

あだんの実を取る木の枝に興味を示し「切っていい?」と、ノコギリを借りに職員室へ、副園長先生からアドバイスをもらい、かなづちで叩くとどうなるのか?興味津々だった。



\*かなづちを両手で持つ子もいれば「俺が叩くから、〇〇は木つかまえておけね!」と協同で工夫しながら徐々に毛になっていく変化に夢中になっている。こども達は木の枝を叩きながら気づき、発見を楽しんでいた

### 【2日目】

さらに毛を細かくできるかな?

遊びにどう広がるのかな?

I児「先生、固まってる毛ハサミで切っていい?」

保育者「切ってもいいけど、どうやって?」

H児「手でこんなやって(裂いて)やれば!」



この時ままごとのフォークで毛をといている別の子が、

R児「髪の毛をやるのでやったらいいじゃん!」と発言。

○早速ブラシを購入してきた

R児「髪の毛みたい!」(ブラシを使って製作を続ける)

「エイサーのチョンダラーの毛みたいだね!」



運動会に、その毛でチョンダラーやってくれるといいなー?

別の子が小さな木の枝を叩いていた

保育者「何するの?」

T児「ほうきにできるよ!先生見ててね!」

「いっぱいゴミとれるよ」



保育者「すごいね～小さなゴミまできれいにとれるね～」

【3日目】

T児「大きな紙に絵の具で絵描きたい！」

K児「この筆きれいに描けないけど、おもしろい形になる！」

H児「変な形になるからオバケとかハロウィンとか描けば！」



【4日目】

H児「先生、テレビで大きな筆で黒い絵の具で描いてる人がいたよ！」

保育者「あれは墨で描いているんだよ。」「やってみたい？」

○早速、墨汁と習字紙を準備した。

墨用の筆づくり

【5日目】“何を描こうかな”“緊張するな”と、友達同士で挑戦！

Y児「立って描くのって難しいけど

大きく描けるのが楽しい！」



“ん”がぬけてるよ？



【6日目】クラスで墨を使って表現製作を行った。

「ほんとにカマキリが跳んでくるみたいだな！」「木がおじいちゃんみたい！」「女の子が笑ってる！」「怖く見える」など、墨のかすれ感や強弱、絵が浮き出してくる感を体験できた。

筆の扱いで習字紙が破れたり、何度か繰り返すうちコツをつかんでいった。



## 4 成果と課題

- 興味を持った数人の子ども達から始まり、鉄鎚で木を叩く子、木を支える子、側でアドバイスをする子、細かい作業を好む子など、徐々に取り組みに参加する子ども達が増えていった。(協同性)(自然との関わり・生命尊重)
- 「毛を細くするには?」「柔らかくするには?」と試行錯誤しながら作業していた。(自立心)(思考力の芽生え)
- 筆が出来上がると、「絵具で絵を描きたい!」と大きな紙に描き始めた。  
遊びこんでいく中で一人の子が「テレビで女の人が大きな筆をもって黒の絵の具で字を書いていた」「やってみたい!」と提案の声があり、墨と習字紙、大きな紙を提供した。(数量・図形、文字等への関心・感覚)
- 墨のかすれ感や絵の表情、個性あふれる作品に、子ども同士で感じたことを伝え合いながら表現遊びとなった。(言葉による伝え合い)
- 筆づくりが完成するまでに色々な工夫と想像力を働かせ、子どもが主体的になって進めていくことが出来た。クラスのまとまりが出てきた。(豊かな感性と表現)
- 活動に消極的だった子も「絵や文字を描きたい」と、積極的に活動し筆や炭の感触を味わい、作品展に広がっていった。(健康な心と体)
  
- あだんの筆の特徴を生かすことができ、子どもが遊び込める素材でした。
  
- 本園で捉えた5歳児の遊びこむ姿の6つの視点  
①興味・好奇心 ②目的をもつ ③試行錯誤 ④持続 ⑤人との関わり ⑥主体性  
全てが見られた実践だった。  
特に色々な方法で試したり、工夫したりする姿(③試行錯誤)・夢中になって遊ぶ姿、一つの遊びが継続する姿(④持続)が顕著に見られた。